

●絶滅危惧種のサイガ

サイガはウシ科で、カザフスタン、モンゴル、ロシア、ウズベキスタン、トルクメニスタンに生息するサイガ (*Saiga tatarica*) と、ゴビアルタ山脈に分断されたモンゴルサイガ (*Saiga boreali*) がいます。

サイガ (*tatarica*) はIUCNレッドリストで「深刻な危機(CR)」とされており、中国、ウクライナでは絶滅してしまいました。モンゴルサイガはレッドリストでは「危機(EN)」です [1][2]。

2015年、生息数の62%にあたる21万頭ものサイガ (*tatarica*) が死亡しました。死亡の原因は高温多湿の気候が続いたため、サイガの大きな鼻に存在する細菌が異常に増殖し、体が抵抗しきれなくなったためとみられています [3]。またモンゴルサイガは2017年3月にヤギペストと呼ばれる病気で生息数の54.5%が死亡しました。サイガは大量死をしても繁殖率が高いので、生息数が多ければ容易に回復することが分かっています [1]。

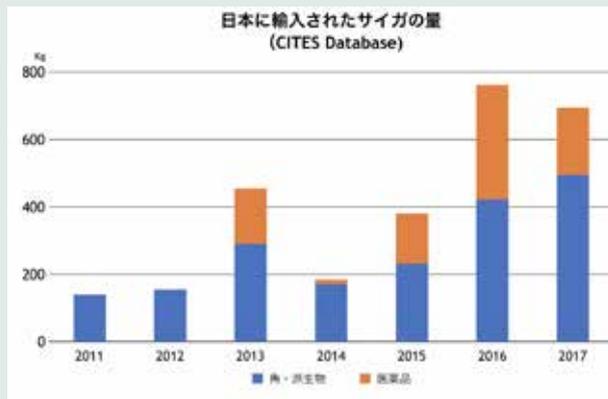
サイガは国境を越えて季節移動するため、ボン条約で付属書II (国際協力により保全する種) とされています。鉄道・道路や国境のフェンスが移動の妨げになり、気候変動や干ばつに対応できなくなる危険があります。他にもサイガにとって脅威は、家畜の放牧によって生息地が失われることや、家畜から病気を移されたりすることなどがあります。

サイガの狩猟の主目的は漢方薬の原料となる角です。オスだけにある透明で琥珀色の角が狙われるため、オスは生息数の5.1 ~ 13.6%しかいなくなり、減少の原因になっています [1]。

●日本に輸入される角

1995年にサイガはワシントン条約付属書II (輸出に許可が必要) に掲載され、2019年の締約国会議で付属書I掲載 (国際商取引禁止) が提案されました。ロシア、カザフスタンで密猟され中国に密輸されていること、日本とシンガポールで大量消費されていることが提案書で指摘されました [1]。

ワシントン条約のデータベースによると、2015 ~ 2017年に日本に輸入されたサイガは全て *Saiga tatarica* で、輸出国は中国、香港、シンガポールでした。とくに2013年以降、シンガポール経由でまとまった量が輸入されており、そのうち2015年以降はカザフスタン産の野生由来の角であることが記録されています [4]。



「日本医薬品集<一般薬>2019-2020」によると、医薬品11,565点のうちサイガの角である「羚羊角(レイヨウカク)」を含む医薬品は43点ありました。その中には「救心カプセル」「宇津救命丸」など広告で目にする薬品もあります [5]。

●サイガの輸出割り当てはゼロに

締約国会議では、附属書Iへの格上げは見送られたものの、サイガ、モンゴルサイガの両方が附属書IIのまま、商業目的での野生由来の輸出割り当て数はゼロになりました [6]。

附属書Iに掲載された場合は日本国内でも種の保存法により、譲り渡しや販売目的での陳列・広告が禁止されます。一方、附属書II掲載種は取引を規制する国内法はありません。

今回の締約国会議の決議によって、サイガの角は新たに供給されなくなります。日本国内には在庫が2017年末時点で2.67tもありますが [7]、サイガには狩猟以外にも脅威があり、再び国際取引が可能な個体数まで回復する日がいつになるのかは不明です。

絶滅危惧種を原料にすることは、ビジネス上のリスクであるといえるでしょう。



アメリカ合衆国魚類野生生物局が主催した、サイガをテーマにしたサイドイベント

[1] CITESCoP18 Prop. 2

[2] IUCN Redlist

[3] 「20万頭ものサイガ大量死、原因は細菌の増殖だった 大きな鼻が愛らしい絶滅危惧種、2015年に大量死が発生」 ナショナルジオグラフィック 2018年2月1日 <https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/18/013100045/>

[4] CITES Database 2019年11月15日 Genus:Saiga 日本への輸入、商業目的、輸入国の報告データを使用

[5] 日本医薬品集<一般薬>2019-2020 (2018) 株式会社じほう

[6] CITES CoP18 Com I. Rec.10 ENB レポート 8月22日 <http://enb.iisd.org/cites/cop18/22aug.html>

[7] 厚生労働省「平成29年末ワシントン条約該当生薬の在庫量」

JWCS 認定特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

設立: 1990年 NPO法人格取得: 2001年 認定取得: 2014年

名誉会長: 小原秀雄 (女子栄養大学名誉教授) 会長: 安藤元一 (ヤマザキ学園大学名誉教授) 副会長: 小川潔 (東京学芸大学名誉教授) 森川純 (酪農学園大学名誉教授) 事務局長: 鈴木希理恵 理事: 小林邦彦 (総合地球環境学研究所研究員) 永石文明 (㈱エコロジープラス) 並木美砂子 (帝京科学大学教授) 古沢広祐 (国学院大学教授) 監事: 高橋智史 (フォトジャーナリスト) 顧問: 岩田好宏 (元・中学高校教諭) 山極壽一 (京都大学総長)

表紙: サイガ

JWCS通信 2019年度通巻88号

2019年11月発行
発行人 = 安藤元一
編集 = 鈴木希理恵
デザイン: 土肥優子

〒180-0022
東京都武蔵野市境1-11-19 モウト APT102
Tel&Fax: 0422-54-4885
E-mail: info@jwcs.org <http://www.jwcs.org>

[会費・寄付のご送金先]
郵便振替 00160-9-715145
加入者名 野生生物保全論研究会
正会員年間 5000円

